

脳機能の温存・再生へと最先端医療に挑む

巨大脳動脈瘤、脳動静脈奇形、悪性脳腫瘍、脳深部腫瘍、てんかん、もやもや病などの治療困難な疾患に対して、各疾患のエキスパートを中心に高度な医療技術と最先端の手術支援システムを駆使して治療にあたっています。

診療体制

スタッフは、教授、講師3名、助教6名、医員・専攻医12名。一般外来と専門外来があり、多数の治療困難な症例の紹介を受けております。脳神経外科カンファレンス(5回/週)に加えて他科と合同カンファレンスも行い治療方針を決定します。脳卒中診療部では高度な医療管理を必要とする急性期脳卒中の受け入れを24時間体制で行っております。

対象疾患

脳血管障害(くも膜下出血、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、海綿状血管腫、脳血管狭窄症・閉塞症、内頸動脈狭窄症・閉塞症、もやもや病など)、脳脊髄腫瘍:悪性脳腫瘍、胚細胞腫、下垂体腺腫、頭蓋底腫瘍、小児脳腫瘍など)、機能的脳障害(てんかん・痙攣発作、顔面痙攣、三叉神経痛、パーキンソン病など)、小児奇形・水頭症など

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

各疾患のエキスパート(脳神経外科専門医14名)を中心に診療にあたります。他科と連携により手術、放射線治療、化学療法で先進的な診療を行っています。年間入院患者数1,000名以上、年間手術件数550件以上と年々増加しています。

高度医療の取り組み・研究

- ①治療困難な巨大脳動脈瘤や脳動静脈奇形に対する治療
高度な頭蓋内外血管のバイパス術に加えて最先端のデバイスを用いた脳血管内手術を併用した治療を行っています。
- ②悪性脳腫瘍に対する脳機能温存手術と新規放射線治療・化学療法
腫瘍手術では、高磁場MRI装置を用いた脳機能イメージング、覚醒下手術、術中ナビゲーション装置を駆使した脳機能温存手術で摘出率が向上しています。ノバリス、IMRT(強度変調放射線治療)を用いた放射線治療に加えて新たな化学療法レジメを開発し、悪性グリオーマの治療を行っています。
- ③てんかん手術
脳磁図を用いた脳機能局在の術前評価、硬膜下電極埋め込みによるてんかん焦点の同定および脳機能局在の評価を行い、難治性てんかんの治療を行っています。



“かたち”と“機能”の両立をめざして

先天性、後天性を問わず、あらゆる変形・醜形・欠損・機能障害を外科的手段で修復。患者さんのQOLを向上させます。他科との連携手術も多く、スムーズなチーム医療の実践に日々努めています。



診療体制

スタッフは教授以下教員5名(准教授1名、講師1名、助教3名)、医員8名、言語聴覚士2名(リハビリテーション部所属)。一般外来は月曜から金曜まで毎日、外来担当医が専門外来も受け持っています。入院ベッド数は23床です。

対象疾患

口唇裂口蓋裂、耳介先天異常、皮膚悪性腫瘍、母斑、血管腫、多指症、合指症、皮膚潰瘍、ケロイド、瘢痕拘縮、褥瘡、顔面外傷(顔面骨折など)、眼瞼腫瘍、乳癌術後の乳房再建、頭頸部癌術後の再建、顔面神経麻痺の修復再建など。

診療、研究実績

一般的な診療についての実績

年間の手術件数は約1,100~1,200件。6割はデイサージャリーです。代表的なものは口唇口蓋裂などの先天異常の手術約200件、悪性腫瘍とそれに関連する再建手術が約100件、瘢痕・ケロイド・瘢痕拘縮の手術が約100件です。

高度医療の取り組み・研究

- ①顔面神経麻痺の形成外科的治療
陳旧性の顔面神経麻痺に対し、麻痺からの時期、症状の程度により静的再建、神経移植による再建、機能筋移植による再建手術を行っています。
- ②難治性皮膚潰瘍を対象とした新規医療基材と線維芽細胞増殖因子との併用による創傷治療の安全性及び有効性に関する探索的臨床試験
医用材料としてはわが国初の医師主導試験です。通常の治療では治癒が期待できない難治性皮膚潰瘍を対象に、当科で開発した治療機器(GM081:新規人工皮膚)と医療用医薬品であるトラフェルミン製剤(フィラストスプレーR)との併用療法を行い、治療機器の安全性および有効性を確認することを目的とします。
- ③乳癌術後の乳房再建手術
乳癌術後の乳房再建には、筋肉を犠牲にしない穿通枝皮弁を用いた形成手術を中心に、オーソドックスな広背筋皮弁や腹直筋皮弁も選択肢に加えて治療を行っています。

